

## 備えてますか？ペットのための「防災対策」

家庭の防災対策や備えについて、ペットのことはしっかり考えられていますか？例えば、被災中に必要なペットの生活用品は、飼い主の責任で確保しなければなりません。避難所では、多くの避難者が共同生活を送るため、ペットの受け入れや飼育は、一定の配慮が必要です。

災害時にすぐ対応できるように、日頃からの心構えや備えについて、具体的に準備しておきましょう。  
問い合わせ先 危機管理課 ☎ 30-6150、FAX23-1777

### 日頃からできる備え

- 鑑札、注射済票、迷子札、マイクロチップの装着
- 健康管理（ワクチンの接種、ノミの予防など）
- 避難場所、避難経路の確認
- ケージトレーニング（ケージに慣れる訓練）
- 鳴き声やトイレなどのしつけ
- 知人などの一時預かり先の確保

### 柴山さんからメッセージ



避難所に自分のペットを連れて行きたい場合は、そのペットが受け入れられる状態であるかどうかが大変重要です。「知らない人と一緒に居ても静かにできる」「言ったことが守れる」「最低限の衛生状態を保つためにシャンプーをして臭いがしない」などというマナーは必要です。これらは日頃からできていないと、いざという時に対応できませんので、トレーニングなどを心がけましょう。  
周りの皆さんには、温かく動物を見守ってもらえたらいいと思います。

### ペット用の防災グッズ

- 常備薬
- フードと水（1週間分）、食器
- ケージ、リード、ハーネスなどの係留用品
- トイレ用品、ゴミ袋、タオル
- 飼い主と一緒にの写真、愛犬手帳など



▶ペットを運ぶためのバッグも準備！

▲カゴにまとめて準備しているそうです。

## 犬猫の譲渡事前登録制

### 「滋賀県動物保護管理センター」に収容された犬・猫を譲渡します

滋賀県動物保護管理センター（湖南市岩根）に収容された犬・猫で、健康で人と社会に順応性がある個体について、譲渡を行っています。

これは、犬・猫の生存機会を拡げるとともに、適正な飼い方ができる模範的な飼い主を育成することを目的としています。譲渡を希望する人はお問い合わせください。

問い合わせ先  
（一財）滋賀県動物保護管理協会  
☎ 0748-75-6522、FAX0748-75-3295

### 犬・猫の譲渡は事前登録制です

飼い主の生活スタイルや生活環境、犬・猫と暮らす生活イメージによって、最適な犬・猫は異なります。これらを事前にお聞きし、条件に見合った犬・猫をご紹介します。



## 動物の専門家に聞きました！

### ペットの飼い方で「特に大切なポイント」ってなんですか？

#### ペットを飼い始める前に家族みんなで話し合う

例えば、犬を飼いたい場合、犬の平均寿命は15年です。15年間ずっと一緒に生活することをイメージしてみてください。「自分たちが高齢になると、どれくらいの大きさのペットをどこまで世話できるのか」「どういうペットが自分に向いているのか」など、家族構成や環境を踏まえて話し合いましょう。マッチングをしっかりと考えてから飼い始めないと、困難な問題に直面しやすくなります。

#### 経済面もよく考えて

食費や、ケガ・病気をした時の医療費など、それぞれだけお金がかかるのかを事前に考えておかなければなりません。今はペットの保険などもあります。必要な備えや準備をしておきましょう。

#### 予防を徹底する

病気の予防といえば、昔は寄生虫関係が多かったのですが、現在では「重症熱性血小板減少症候群」という、ウイルスを保有する

マダニに咬まれることで感染するものがあります。これは人にも感染します。

ウイルスなどを持ち込んだり同じ環境で共有したりしないように、ノミ・ダニの駆除薬を使用する、予防注射をする、猫であれば屋外に出さないようにするなど、動物の予防を徹底することが重要です。

#### 犬とのコミュニケーションが病気の早期発見につながる

犬は人と接する機会が多いと、人の言っていることをよく理解できるようになります。毎日ブラッシングをしたり触ってあげたりすると、体の異変に早期に気づくことができます。飼い始めた時から、体のいろんなところを触っても怒らないような育て方をするのは大切です。

獣医師にとっても、そうした育て方をしてくれているとありがたいです。なぜなら、受診時などに、威嚇して診せてくれなかったり、鎮静剤をかけないとレントゲン撮影や採血ができなかったりすると、処置が一步遅れてしまうからです。何でも診せてくれると、早期に病気などを発見してあげられます。

#### みんなのためにお散歩マナーを守る

芝生の多いところへ犬を連れて

柴山動物病院院長・滋賀県獣医師会会長  
柴山 隆史さん

散歩に行くと、犬は喜んで走り回ります。その際、とても残念なことに、ウンチが放置されていることがあります。そういうことが何度もあると、周辺地域から苦情が出て、犬が立入禁止になってしまう場合があり、犬が喜ぶ場所に連れて行ってあげたいのに、それができなくなります。

散歩の時は、自分のことだけでなく、他の人や犬の気持ち、周辺に住む人のことも考えて、マナーを守ってほしいと思います。

#### 「お散歩からはじめよう活動」推進中！

マナーを守って散歩をすることで、たくさん良いことがあります。例えば、良いマナーを見た人がその姿勢に共感し、犬が苦手な人にも良いイメージを持ってもらえることもあります。他にも、犬の散歩をすることが子どもの見守り活動になったり、地域の方との会話のきっかけになったりします。

皆さんの地道な活動が、犬だけではなく動物が受け入れられやすい社会につながってほしいなと思います。

